

施策番号	1902		
施策名	学びが社会に還元されるしくみづくり		
概要	ひとりひとりが学び続けることにより地域や社会の課題を認識し、課題解決に主体的に取り組むまちづくりを進めるとともに、地域活動の活性化につなげる。		
担当局・部室	教育委員会・生涯学習部	共管局・部室	
上位政策	19 生涯学習		
施策に関する主な分野別計画等			

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	28年度	29年度	30年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト
1 博物館ふれあいボランティア等活動回数(回)	a	a	10,342	10,198	7,000	145.6%	a	1.00
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
			客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	28年度	29年度	30年度回答						
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1 生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている。	c	c	35	125	202	40	20	422	c
			8.3%	29.6%	47.9%	9.5%	4.7%		
2 地域での取組において、幅広い世代がともに学べる機会が充実している。	c	c	25	112	196	48	28	409	c
			6.1%	27.4%	47.9%	11.7%	6.8%		
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
			市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 本施策に係る事業については、市民ひとりひとりの学びと取組が、直ちに社会に還元される仕組みになっていると、多くの市民が実感することは困難であるため、客観指標を重視する。						29 年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 <input type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input checked="" type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「生涯にわたって自ら学習したことが、仕事や社会活動に役立っている」との実感がC評価となっていることについては、市民一人一人の「学び」が、それぞれの仕事や社会活動に生かされる「機会」そのものが少ないことや、実際には何らかの形で学びと仕事や社会活動が繋がっていても、それを実感するに至っていないことが考えられる。 ・幅広い世代がともに学べる機会の充実については、地域の各種団体や学校運営協議会、PTAなどが連携し、住民の相互交流を深めるためのイベント等、地域に根ざした取組を推進しているが、参加者数が十分でないため、学習する機会が十分あるという実感までは得られていないと考えられる。 						28 年度	B

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		30年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		29年度 決算額	30年度 予算額		
1	各種生涯学習事業	90,825	118,280	良い	教育委員会
2	親と子のこころの電話	15,427	13,507	普通	子ども若者はぐくみ局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・ボランティア活動の更なる機会拡充を図り、学びの成果を十分に発揮して生きがいや充実感を得られる活動となるよう、引き続き、京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」と連携しながら、ボランティア養成講座を実施するとともに、加盟館に対して、ボランティアの継続的な周知・活用依頼に努める。
- ・豊かな学びの場・機会・人材のネットワークづくりを進め、地域に根差した生涯学習活動の活性化を図る。また、市民の多様な学習活動を支援し、あらゆる世代の方が自ら楽しんで学び、生涯を通して学び続けられる環境づくりに取り組むとともに、その学びの成果をまちづくり、地域、子どもたちの学びと育ちに活かすことができる京都ならではの生涯学習のまちづくりを今後も推進する。
- ・地域の各種団体や学校運営協議会、PTAなどが連携した地域コミュニティづくりを推進し、子どもからお年寄りまで、幅広い世代の住民の相互交流を深めるための催し等、地域に根ざした取組を支援する。

施策名	1902	学びが社会に還元されるしくみづくり
-----	------	-------------------

指標名	博物館ふれあいボランティア等活動回数（回）
-----	-----------------------

担当課	生涯学習部生涯学習推進担当	連絡先	251-0410
-----	---------------	-----	----------

1 指標の説明

「博物館ふれあいボランティア」「情報モラル市民インストラクター」「親支援プログラム支援者」の活動回数

2 指標の意味

自らの学びを京都のまちや地域に活かしている市民の増加状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	28年度	29年度		数値	根拠	達成度
数値	10,342	10,198	144回減	7,000	32年度の数値目標達成のために当年度に達成すべき数値	145.6%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		7,000回	32年度	145.6%	22年度実施回数（5,644回）の約2割増

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

100%以上を a とし、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

28	29	30
a	a	a